

# 瀬戸先生へのインタビュー

小田高新聞 1980年12月23日号より

関東予選、高校総体予選で優勝し、高校総体で3回戦まで進出したサッカー部。ここまでサッカー部を育ててきた、瀬戸先生に取材してみた。

\* \* \* \*

昭和44年、サッカー部の顧問になった。この年は、部員が多かったのであるが、実力がなく、実力をつけるために、練習を厳しくしたそうである。その結果、退部する者が目立ちはじめた。特に47～48年だそうだ。

48年には20名入部したのであるが、10名に減ってしまった。やはり47～48年が瀬戸先生にとってもサッカー部にとっても、一番苦しかったそうである。瀬戸先生はこの時期には、やめた生徒を再び入部させるようにしたのである。

## 12人で試合へ

小田高サッカー部は50年の歴史を持つているが、48年には部員不足のため休部になりそうになったのである。この時先生は、「サッカー部の歴史の中で1年でも休部することは、許されない」と思い、やっとの思いで、部員を集め12名で試合に向かったそうである。

やめていく部員について、ほとんどは、成績との関係が原因で、夏休み前にやめていくそうである。小田高は進学校だけに、部活と勉強との両立が問題になっている。

サッカー部では、普通、練習時間は2時間と決まっている。これは、先生が部活と勉強の両立をさせようとしている考慮であるとともに、部員を引きとめておく対策であるそうだ。

50年には新入部員がたくさん入り、県でベスト4まで進出した。この年からだんだん強くなり、3年に1度くらいの割合で県でベスト4入りできるようになったそうである。

## 11年目にして

そして今年がちょうどその周期にあたったのである。関東予選、高校総体予選に優勝し、高校総体に出場したのである。これは瀬戸先生がサッカー部の顧問になって11年目の快挙であった。

高校総体の前、先生は、2つの大きな大会に優勝して、甘えがでるのではないかと心配した。少しその傾向があったが選手たちは、自分たちの力を理解し、よく戦ったと言われた。

11月3日の相工大附高との試合について、高校総体で3回戦までいき、少し気のゆるみがで、相手のねばりに小田高のねばりが勝てなかったと言われた。

今年の2年生については、個々の実力はあるが、先輩が好成績を残したので、甘さがあり、厳しさに欠けていると言われた。これからの脱出が課題であるそうだ。

## チームワークと気力

サッカーについて、先生は、県でベスト4に入れなければ優勝はできないと言われた。ベスト4に入ればあとは運とやる気だそうだ。

また、うまいから勝利ということではなく、チームワークと、気力が勝利に結びつくと言われた。

取材に応じてくれながらも、部員たちを見つめる視線は鋭いものがあった。